



「都幾川からヌエックを望む」(事業課職員 小輪瀬護安)

も く じ

○総合テーマについてひとこと 「評価」時代と運営委員会の役割 上智大学教授 目黒依子	2	○ことばの基礎知識 ・シソーラス	6
○事業予告・募集 ・公開講演会 「今、生命を考える」	3	○情報ネットワーク ・会館25周年記念展示	6
・平成15年度の主催事業(参加者を募集する事業)	3	・「TICT」、[WINET情報]の更新	6
○事業の実施報告 ・ヌエック2002・全国交流フェスティバル	4	○ボランティアコーナー ・自主活動グループの紹介(グループあい)	6
・男女共同参画学習推進フォーラム(埼玉県、滋賀県)	4	○お知らせ ・ヌエックニュースが100号になりました	7
・女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会	4	・調査研究及び国際交流・協力機能を充実 研究国際室の設置	8
○調査研究事業報告 ・国立女性教育会館研究紀要第6号発行	5	・利用案内(休館日4月～7月)	8
・女性のエンパワーメントのための 生涯学習拡充方策に関する調査研究 ー平成14年度日韓共同研究会議ー	5	・主な利用団体(11月～1月)	8
・ヌエックの調査研究事業の成果を海外で発表	5	・展示コーナー 「農山漁村女性のエンパワーメント」	8

ヌエックNews 創刊100号記念

平成14年度 国立女性教育会館総合テーマ

『男女共同参画社会の形成をめざした「学び」と「活動」』について



目黒 依子 氏からひとこと

「評価」時代と運営委員会の役割

ヌエックが独立行政法人となって最初の運営委員会会長の役を担うこととなった。

それ以前の運営委員会は、会館の活動全般について外部の専門家グループが助言をする、という役割を期待されていた。その背景には、国立婦人教育会館の創設が、第1回世界女性会議以降の国の取り組みと女性NGOを中心とする市民社会の熱意と努力の成果であり、男女平等を目指す市民参加型の行政センターを創るという認識が共有されてきたことがあると思う。行政改革の過程において、行政組織の設立目的やその目的達成の方法、実際の成果が問われることとなり、「評価」が行政組織存続のための不可欠のステップとなった。納税者からみれば遅過ぎたともいえる動きであった。

ヌエックに対する評価は、文部科学省に設置された評価委員会によって行われるが、その方法は多種多様な組織を一律に把握することを前提にしていると思われる定量的な傾向が強く、また、計画された事業の妥当性そのものを問うという基準が欠けている。しかし、ヌエックの活動史を考えると、この方法ではヌエックの果たすべき役割や貢献の重要な部分が抜け落ちてしまうことに誰でも気が付く。

現運営委員会の主要な役割は、ヌエックが掲げる活動目的及びその妥当性や活動実施の方法、活動の成果などを定量的及び定性的に評価することにある。そのためには、変化する社会情勢を踏まえてヌエックの存在意義を確認すること、独立行政法人という特性を最大に生かすような「経営」を意識すること、そして、評価方法を確立することなどが必要となる。

現段階では、法人化に際して文部科学大臣から示された中期目標をヌエックの目的とすることが委員会にとっての前提となっている。そのため、委員会の作業は、中期目標を達成するための事業の実施状況や成果を客観的に把握すること、その上で個々の事業のあり方や改善点を明らかにし、今後の課題とその優先度を示すこととなる。女性のエンパワーメントを通して男女共同参画社会の実現を図る活動は大学や自治体等で実施されているが、ヌエックはナショナル・センターとしての役割を果たすことが特に期待される。

今は、これまでの「初めに事業ありき」から「何のためにどんな事業をする必要があるか」へという発想の転換が重要で、委員会ではそのような観点から評価基準作りを目下集中的に行っている。

プロフィール

現 職 上智大学教授

国連女性の地位委員会日本政府代表

(独立行政法人国立女性教育会館運営委員会会長)

専門分野 社会学

所属学会等 日本社会学会、女性学研究会、日本家族社会学会 等

主な著書 「少子化時代のジェンダーと母親意識」(共編著、新曜社：2000年)

「家族(講座社会学2)」(共編著、東京大学出版会：1999年)

「ジェンダーの社会学」(共編著、放送大学教育振興会：1994年) 他 多数

事業予告・募集

公開講演会「今、生命を考える」

今、身の回りでは青少年による残虐な犯罪の多発や、増加する幼児虐待が社会問題となり、また遺伝子組替や生殖技術・クローン技術の進歩により、生命の価値の再認識が求められています。

このような時代にあらためて「生命(いのち)」について、女性・子どもを取り巻く状況やリプロダクティブヘルス/ライツの視点を通して考えてみましょう。

◎日 時 平成15年2月14日(金) 13:30~16:00

◎場 所 国立女性教育会館講堂

・内容 (講演は逐次通訳(英語⇄日本語)、手話通訳を行います)

・「女性の健康と権利」

30年間、リプロダクティブ・ヘルスの専門家として活躍してきた経験を基に、特に青少年に対するエイズ教育の重要性和、女性の社会的地位の向上・健康の必要性について。

・講師: スーマン・メータ (国連人口基金グローバル HIV/AIDS コーディネータ、産婦人科医、公衆衛生博士)

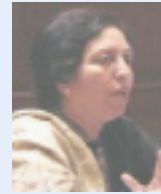
・「今、生命を考える」

マラソン選手時代から、スポーツを通して、カンボディアの地雷の被害者に対し、精神的な支援や義足提供の援助をするようになったきっかけと、親善大使としての活動について。

・講師: 有森 裕子 (国連人口基金親善大使・女子マラソン五輪メタリスト)

※1 申込方法等詳しくは事業課までお問い合わせ下さい(ヌエックのホームページでも案内しています)。

2 この講演会は、埼玉県教育委員会の後援を受け、国連人口基金(UNFPA)東京事務所と共催で行います。



◀ スーマン・メータさん



◀ 有森 裕子さん

平成15年度主催事業 (参加者を募集する事業)

平成15年度に実施予定の主催事業(参加者を募集する事業)の実施計画です。発行日現在の計画なので変更する場合があります。事業内容等、詳細につきましてはお問い合わせ下さい。

1. 研修事業(日程順)

事業名	対象・募集人員	時 期 等	備考
女性関連施設職員のためのセミナー 「女性のチャレンジ支援と女性関連施設の役割」	①職員コース 女性関連施設等の就任2年未満の職員 ②館長コース 女性関連施設の就任2年未満の館長等 合計120名	①職員コース 3泊4日 平成15年6月3日(火)~6日(金) ②館長コース 1泊2日 平成15年6月3日(火)~4日(水)	
子育てネットワーク研究交流協議会	①子育てネットワークのリーダー及びメンバーと子ども ②子育てサークルのリーダー及びメンバーと子ども ③家庭教育、子育て支援行政担当者や関係者 ④幼児教育・保育担当者及び関係者 ⑤子育て支援に関係する専門家(カウンセラー、医師、研究者等) ⑥子育て中の親 ⑦子育てネットワークに関心のある者	年間3回(国立女性教育館での実施(6月28日(土)・29日(日))を含む3カ所で開催)	
男女共同参画を進めるための教員セミナー 「学校教育の中で男女共同参画を進めるために」	各都道府県・指定都市教育委員会・教育センター指導主事・研修主事及び国・公・私立の幼・小・中・高等学校(特殊教育諸学校を含む)の教員、校長、園長 120名	平成15年7月29日(火)~31日(木) 2泊3日	新規事業
国際女性情報処理研修	アジア・太平洋地域の行政担当者・NGOの指導者 (日本を含む) 30名	平成15年9月25日(木)~10月6日(月) 12日間	
女性のエンパワーメント支援セミナー	①行政担当者 ②女性教育・家庭教育に関する団体・グループやNPO等のリーダー 合計100名	平成16年1月27日(火)~30日(金) 3泊4日	
女性関連施設相談担当者実務研修	公私立の女性会館・女性センター等の女性関連施設の相談業務担当者	平成16年2月25日(火)~27日(金) 2泊3日	新規事業
公開講演会「夢を編む」	成人男女 600名	平成16年2月又は3月	
女性の教育推進セミナー	南西アジア、サブサハラアフリカ、中近東等の開発途上国で、女性の教育問題に携わっている担当者 9名	平成16年2月~3月	
男女共同参画学習推進フォーラム	成人男女 各地域200名程度	年間3回(全国各地で開催)	

2. 交流事業

事業名	対象・募集人員	時 期 等	備考
女性学・ジェンダー研究フォーラム	①宿泊参加者 350名 ②日帰り参加者 650名	平成15年8月22日(金)~24日(日) 2泊3日	
女性情報国際フォーラム「女性情報のグローバルなネットワークをめざして」	①女性情報に関心のある成人男女 120名 ②「国際女性情報処理研修」の参加者 30名	平成15年9月27日(土)~28日(日) 1泊2日	
ヌエック2003・全国交流フェスティバル	①宿泊参加者 350名 ②日帰り参加者 300名	平成15年11月7日(金)~9日(日) 2泊3日	

3. 調査研究事業

事業名	対象・募集人員	時 期 等	備考
ヌエック公開シンポジウム 「女性の生涯学習/平生学習 —自己開発と社会参画のために—」	女性問題、家族問題、教育問題の専門家・研究者、マスコミ・行政関係者等 100名	平成15年6月27日(金) (会場:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区))	

事業の実施報告

ヌエック2002・全国交流フェスティバル

10月25日(金)～27日(日)までの3日間、男女共同参画社会の形成に向けた学習・活動を行っている団体・グループ等を対象とした「ヌエック2002・全国交流フェスティバル」を開催し、約800名の参加がありました。

フェスティバルのテーマは、「踏み出そう・わかち合おう・広げようー男女共同参画社会ー」。参加者相互の学習・交流及びネットワークづくりを目的としました。

フェスティバルは、「ジェンダー問題」「女性政策」「表現」「文化活動」「国際交流」等をテーマとする公募による67件の自由企画プログラムのほか、松本侑壬子さん(十文字学園女子大学教授・映画評論家)による講演「映画の中のジェンダー」、そして9名の実行委員によるテーマ別討論「気づこう!私の中のジェンダー」「メディアを女性の手に」「女性の人権、私の人権」「少子・高齢社会を生きる」「決定の場にもっと女性を」の5つに分かれて実施しました。

多彩なプログラムにより、男女共同参画社会に向けて、踏み出し、感動をわかち合い、ネットワークを広げる、充実したフェスティバルになりました。



▲ 交流風景

男女共同参画学習推進フォーラム(埼玉県、滋賀県)



▲ 埼玉県のパネルディスカッション



▲ 滋賀県のトーク&トーク

「男女共同参画学習推進フォーラム」を埼玉県(12月1日(日))、滋賀県(12月7日(土))、の2地域で開催しました(富山県、秋田県は実施済み)。

埼玉県では、埼玉県男女共同参画推進センター(With You さいたま)と共催で、「埼玉県男女共同参画サミット」を開催しました。午前は、『埼玉県各地域の男女共同参画を考える～語ろう・つながろう・ネットワーク～』をテーマに、橋本ヒロ子さん(十文字学園女子大学教授、国立女性教育会館監事)のコーディネーターによるパネルディスカッションが行われ、埼玉県の東西南北4地域から男女共同参画の現状と課題が報告されました。午後は、7つの分科会(教育、DV、女性の就業、子育て、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、政策決定の場への参加、演劇パフォーマンス)に分かれて話し合ったり、体験をしました。

滋賀県では、滋賀県立男女共同参画センター及び滋賀県男女共同参画推進協議会との共催で「なぜ進まない男女共同参画」を開催しました。『ちょっと本音で話ませんか? 滋賀の暮らしの女(ひと)と男(ひと)』をテーマに、県内の3地域(湖北、湖西、甲賀)で実施した、5つ(まちづくり、暮らしとパートナー、子育て・教育、高齢期をいきいきと、仕事・起業)のワークショップの報告を踏まえて、まとめのワークショップを行いました。その後、小沢修司さん(京都府立大学教授)、高橋啓子さん(臨床心理士)を迎えてトーク&トーク「学ぼう 気づこう 動かそう」を行い、地域の男女共同参画を進めていく上で何が必要なのか、具体的な方法について考察しました。

女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会

12月11日(水)～13日(金)の3日間、「女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会」を開催しました。今年で4回目となる同研究協議会には全国の女性関連施設等から62名の情報担当者が参加しました。対象施設はネット上で情報発信を行っているか行う予定の施設でしたが、今年参加の52施設のうち9施設は初参加でした。

丸本郁子さん(大阪女学院短期大学名誉教授)の講義「情報リテラシー・サポーター今求められる利用者のエンパワーメント支援」を受けたり、木下みゆきさん(大阪ドーンセンター)によるヌエックホームページ上の情報担当者向けサイト(TICT)のレファレンス事例集の活用実習や、利用者のための特定トピックに関する情報検索の説明資料の作成を実習し、女性情報の収集・活用に関する技術を高めました。

分科会では「小規模女性関連施設の情報事業」、「行政・地域とのネットワーク」、「女性情報の発信ーHP・広報誌」の3つに分かれて事例報告と研究協議を行い、全体会では分科会報告の後、「発信した情報のフィードバックについて」「県レベルと市町村レベルの施設の役割分担」など情報事業の企画・運営について活発な意見交換が行われました。



▲ TICTの活用実習

国立女性教育会館研究紀要第6号発行



「男女共同参画社会と学びの創造」をテーマに第6号を編集・発行しました。テーマ論文として「男女共同参画社会の形成に向けた学び」（村松泰子）、「学びの共同体の系譜」（佐藤学）、「すべての人に教育を、ユネスコのジェンダー平等教育への取り組み」（菅野琴）、「スウェーデンに学ぶ生涯学習社会」（神野直彦）の4篇、投稿論文は21編のうちから査読の結果、入選した論文を4篇掲載しています。また、会館の調査研究事業に関連した論文等が3篇、書評4篇を掲載しています。

なお、研究紀要第7号は「雇用、福祉、ジェンダー」をテーマに投稿論文の査読を進めています。研究紀要に関するお問い合わせは研究国際室まで。

女性のエンパワーメントのための生涯学習拡充方策に関する調査研究 —平成14年度日韓共同研究会議—

韓国女性開発院（KWDI）との共同研究も今年で3年目をむかえ、成果の取りまとめに向けて9月13日（金）にソウルで、また11月30日（土）には又エックで共同研究会議を開催しました。

韓国女性省は女性の社会参画を促進するために、若い世代の職業選択の可能性を広げることを意図して「新職業フェア」を行いました。このような女性政策の下で、女性の学習や文化活動がどのように行われているのか、日本の状況と比較討論しました。

なお、今年の6月27日（金）に「国立オリンピック記念青少年総合センター」でこの調査研究の成果をまとめた公開シンポジウムを行う予定ですので、ふるってご参加ください。



▲ 11月30日（土）の共同研究会議の参加者

又エックの調査研究事業の成果を海外で発表

10月18日（金）～21日（月）の4日間、中国の北京で中華女子学院主催「アジアにおける女性学教育国際シンポジウム」が開催され、大野 曜（理事長）が「国立女性教育会館の女性学・ジェンダー問題に関するこれまでの取り組みと今後の課題」をテーマに報告しました。

また、11月5日（火）～7日（木）の3日間、タイのバンコクでユネスコの「社会開発のためのICTを使った基礎教育トレーニング」会議が開催されました。この中の「ジェンダーの視点に立った家庭教育のためのトレーニング・研修モジュール作成」の分科会で、中野洋恵（主任研究員・研究国際室長）が又エックが行った「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」の成果をまとめて作成したブックレット「男女共同参画、はじめの一步を家庭から」について報告しました。

これからも事業の成果を様々な形で国内外に紹介してまいります。

※ ブックレット「男女共同参画、はじめの一步を家庭から」は市販されています。



▲ 北京の国際シンポジウム

ことばの基礎知識

シソーラス

情報を探す時には、どの「言葉」で探すが大きな力となりますが、思いついた言葉だけで検索した場合、検索の漏れがあったり、不要な情報が多すぎることがよくあります。

例えば、「セクハラ」という言葉で検索すると、「性的嫌がらせ、セクシュアル・ハラスメント」といった、同じ意味でも表記が異なるものは検索されません。

シソーラスは、「情報検索する際に用いられる用語を意味で整理し、同義語、広義語、狭義語、関連語等と関連づけた用語集」ですが、この用語集を検索システムに用いることによって、図のように「セクハラ」を整理し、同時に検索できるようになる等、検索を効率良く行うことができます。また、広義語として「性暴力」、狭義語として「アカデミック・セクハラ」等があることがわかることによって、更に検索の幅を広げたり、狭めたりすることができるのも、シソーラスの特徴です。



検索語	関連語	定義	出典
セクハラ	性的嫌がらせ	性的な言動による嫌がらせ	労働省・労働基準局
セクハラ	セクシュアル・ハラスメント	性的な言動による嫌がらせ	労働省・労働基準局
セクハラ	性的暴力	性的な言動による嫌がらせ	労働省・労働基準局
セクハラ	アカデミック・セクハラ	アカデミック分野での性的嫌がらせ	労働省・労働基準局

情報ネットワーク

「開館25周年記念展示」

昭和52(1977)年に開館したヌエックは平成14年11月で開設25年になりました。これを記念して11月8日(金)～12月1日(日)に本館2階展示ロビーで特別展示を行いました。展示したのは、開館当時の新聞記事や20周年までの歩みのパネル、及び最近5年間の動きをまとめたパネルと出版物でした。特に最近の年表のパネルでは、名称変更・独立行政法人化によってヌエックがダイナミックに変貌していった様子を感じとっていただけたと思います。



「TICT」、「WINET情報」の更新

1. 「TICT」女性情報レファレンス事例集に事例を追加

本誌99号でも9月に24事例が追加されたことをお知らせしましたが、12月11日(水)に新たに11事例が公開され、レファレンス事例は合計45事例となりました。「女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会」では、早速このサイトを使ったワークショップが行われました。

2. 「WINET情報」

本誌98号でお知らせしましたように、「WINET情報」は平成14年7月からホームページ上で情報提供を始めました。「女性・家族関係雑誌記事インデックス」、女性問題学習の参考になる一般には入手しにくい資料を紹介する「新着図書案内」、3ヵ月ごとに実施している資料展示の「テーマ展示図書リスト」を定期的に更新しています。どうぞご活用ください。

ボランティアコーナー

自主活動グループの紹介② 「グループあい」

ヌエックのボランティア活動には、女性教育情報センターの資料の整理や、「あんな本こんな本」の作成を行う活動があります。その活動グループのメンバーが組織する「グループあい」は、相互の親睦と交流会、自己の研鑽、館外研修、他施設ボランティアとの交流等を目的とした楽しいグループです。

「グループあい」はヌエックが設立された2年後(昭和54年)に「J・T・V(情報図書ボランティア)」として発足し、平成11年に現在の名前に改称しました。

グループとしてこれまでに国連大学、東京ウィメンズプラザ、江戸東京博物館などで研修を行ってきましたが、12月10日には、国立国会図書館で館外研修を行いました。国会図書館では、莫大な資料(国内外の法令集、世界各国の新聞、官庁の刊行物など)の収集・保存、書誌作成、また、国会へのサービス、行政・司法へのサービスなど業務の多様さと、自動化された資料の運搬の迅速さと量の多さに感嘆しました。

これからのボランティア活動にとって更なる知恵をいただいた、実りある研修会でした。



▲ 国立国会図書館入り口前で

お知らせ

ヌエックNewsが100号になりました



▲ 写真①



▲ 写真②



▲ 写真③

ヌエックは昨年11月で開設25年を経過し、ヌエックと女性教育に関する最新の情報をお届けする広報紙「ヌエックNews」も本号で100号になりました。

「会館だより」という名称の創刊号（S53.3.1：写真①）は、砂田重民文部大臣（当時）の巻頭言に始まるヌエック開館特集号でした。第2号（S53.7.1：写真②）から通常の発行形態となり、斎藤 正国立婦人教育会館運営委員会会長（東京国立博物館長、当時）の巻頭言、会館の機能・施設・主催事業の紹介、利用方法、利用状況等が掲載されています。

第19号（S57.10.15写真③）では、初めて表紙をカラーで印刷し、第21号（S58.4.15）から全紙面を青と黒の2色印刷、第27号（S59.10.1）からは毎号の表紙をカラー印刷にしました。

第30号（S60.8.15：写真④）から名称を「国立婦人教育会館ニュース」と改称し、赤、青、黒の3色印刷になりました。第61号（H5.4.15）からは、サイズをA4判に拡大し、情報量を増やすとともに、文字サイズも大きくして読みやすさを図りました。第71号（H7.10.15）から各面すべてのフルカラー印刷の始まりです。

第77号（H9.4.15：写真⑤）から「ヌエックニュース」、第89号（H12.4.15：写真⑥）からは名称を「ヌエックNews」に変更し、現在まで引き続き発行しています。

「ヌエックNews」は、行政機関、女性関連施設、女性団体、大学、マスコミ及び送付を希望される方たちに郵送しているとともに、ヌエックへいらっしゃった方や主催事業に参加される方などに配布し、約13,000部を発行しています。

これからも、ヌエック、女性教育、男女共同参画社会の形成に関連する情報をお届けしてまいります。掲載記事に関するお問い合わせや、ご意見・ご希望については総務課までお願いします。



▲ 写真④



▲ 写真⑤



▲ 写真⑥

調査研究及び国際交流・協力機能を充実 研究国際室の設置

平成14年11月1日、ヌエックの調査研究機能並びに国際交流及び国際協力の機関としての機能強化とその連携を図るため「研究国際室」を設置しました。

ヌエックには、女性教育のナショナルセンターとして、女性教育に係る国際協力の受け皿となるよう国際関連業務を強化・充実することが求められています。

そこで、国際的な調査研究事業及び国際交流・国際協力事業を機動的に展開するために、女性教育に関する高度で専門的な調査研究事業と国際交流・協力事業を密接な関連の下に行う「研究国際室」を設置したものです。

- ・事業課の主任研究員（1名）、研究員（2名）及び情報交流課の国際交流係（2名）を振替えて、研究国際室を設置しました。
- ・研究国際室長は、主任研究員が併任します。
- ・研究国際室に国際企画係を設置しました。
- ・情報交流課を情報課にしました。

お知らせ

●利用案内

※ 休館日（平成15年2月～7月）

2月3日(月)・17日(月) 4月21日(月)・28日(月) 6月 9日(月)・16日(月)
3月3日(月)・31日(月) 5月 6日(火)・19日(月) 7月 7日(月)・22日(火)

注) ①休館日前日の宿泊と当日の朝食はご利用になれます。
②電話・FAX・e-mailによる申し込みの受付や利用相談なども行っています。
③会館ホームページではいつでも施設の空き状況等がご覧になれます。

●主な利用団体(平成14年11月～平成15年1月)

11月

1日～ 5日 日本スリーデーマーチ
8日～ 9日 スエックOG・OB会
9日～10日 全埼玉私立幼稚園連合会西部ブロック新規採用教員研修
9日 財団法人さわやか福祉財団・地域たすけあい
研修会in埼玉
10日 埼玉県ジュニア太鼓コンクール
12日 菅谷中学校PTA・たかはしべんさん歌とお話(講演会)
13日～15日 平成14年度全国地域婦人団体連絡協議会リーダー研修会
17日 嵐山中央公民館・七つの祝い
22日～23日 社団法人国際婦人教育振興会海外派遣事後研修
24日 「芸百選」華の会
30日 嵐山歌謡ふれあい会

12月

1日 嵐山町社会福祉協議会
7日～ 8日 埼玉県保育問題協議会・第20回埼玉保育のつどい
10日～11日 ソウル市女性プラザ
14日～15日 全国女性教育懇話会
14日 財団法人郷学研修所
23日～25日 大妻嵐山高等学校冬期学習合宿

平成15年 1 月

10日 嵐山町役場
12日 嵐山町・成人式
17日～19日 社会教育施設ボランティア交流会
21日～22日 財団法人あしたの日本をつくる協会
22日 埼玉県公民館連合会
23日 富岡市女性政策推進会議委員
24日～26日 女性言語教育学会 (Well)
25日 全埼玉私立幼稚園連合会西部ブロック保育実
践研究協議会

●展示コーナー



「農山漁村女性のエンパワーメント」

地域の生産・生活の各方面で多様な能力を発揮してきた農山漁村の女性の置かれている現状を知り、農山漁村における男女共同参画社会の形成に向けて女性のエンパワーメント(力をつけること)の必要性を考える資料を一階エントランスホールに展示中ですので、是非ご覧ください。

*展示資料例

「日本農業の女性学：男女共同参画社会とエコロジカル・ライフをめざして」
「山村に輝く女性たち：女性のパワーが地域を動かす」
「女性農業者の地位向上に関する実態調査」ほか

●寄付金のお願い

ヌエックではより充実した業務遂行のための経費に充てるため、寄附金を含む外部資金を受け入れております。今後とも、事業の充実、運営の改善及びサービスの向上に努めてまいりますので、皆様方の暖かい御篤志を賜りますようお願い申し上げます。

◎寄附金に対する問い合わせは総務課へ

一定の金額までの寄附金については、法人及び個人の場合ともに税法の規定により、所得から控除されます。

編集後記

- ヌエックは、今年で開館26周年を迎えます。この間の延べ利用者数は、約260万人、うち海外からの利用者は約160か国、5万人になりました。独立行政法人として、女性教育に関するナショナルセンターとしての役割を果たしつつ、多くの皆様の生涯学習施設として大いに活用いただきたいと、施設・設備の整備やサービスの改善・充実に努めています。
- 平成15年度の事業の一部を3ページに掲載しておりますが、新たに「教員セミナー」、「女性施設の相談担当者研修」などを実施します。「教員セミナー」や「子育てネットワーク研究交流協議会」では企画委員会を開催し、「全国交流フェスティバル」では実行委員会を開くなど実践的なプログラムとなる工夫に努めています。
- また、「女性情報国際フォーラム」は3月に開催される「国連女性の地位委員会」の議論を踏まえ、12月の「世界情報社会サミット」を前にタイムリーなものとなると考えています。
- 本紙「ヌエックNews」も次号で101号になります。これからもヌエックと男女共同参画社会の形成に向けた学習に関する様々な情報をお知らせして参ります。よろしくお願い申し上げます。

ヌエックニュース第100号

平成15年1月25日発行

編集発行 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

☎0493-62-6711(代表)

FAX.62-6722(総務課) 62-6720(事業課)
62-6721(情報課) 62-9034(研究国際室)

ホームページURL <http://www.nwec.jp/>
E-mail webmaster@nwec.jp